

明の壮観さを偲んだ。

昼間は会議・見学と忙しくあったが、夜はやはりラテン、音楽の国であった。ブエノスではタンゴにアンデスのフォークローレ、リオではサンバ、メキシコではマリアッチ広場。若山先生の後について行けば必ず音楽に当る。圧観はサンバの会場で若山先生が舞台に立ち、上を向いて歩こうを身振り付きで唱い喝采を博したことであった。

21日(金)夕、成田着。いきなり蒸し暑い現実にかえる。ORと音楽と胃袋の旅は終わった。——今頃になってやっと、USPの斎藤広志氏の著書などラテン関係の本を漁る。



イグアスの滝にて

会員の声・近況

鳥居 裕 四国電力(株)情報システム部 システム開発課

毎月OR誌が配られてくるとパラパラめくってみる。ほんのたまに目に止った所を家で眺めることもあるが、大抵は、わからないまま眠ってしまう。五十路を迎えるとは悔しくもない。

私のORは、子供時代の算数・数学が電気工学に、そして電力系統の仕事にコンピュータを使っていたことが今担当している情報システムへのキッカケとなり、OR誌も読むことになった。

今、高度情報社会へ向けて世の中はあわただしく忙しい。私も大きな流れの小さな1つの渦のなかで、毎日、「あれはどうか」、「この考えはうまくゆくだろうか」とオペレーションズ・リサーチを繰り返している。疲れた時はOR誌を眺めて早く眠りたい。

谷川 明夫 豊田工業高等専門学校一般学科

私は現在、工業高等専門学校の応用数学を担当しております。主に、高学年生の確率・統計、応用解析学の教育にかかわっておりますが、所属が一般教育課程のため低学年の解析学なども教えております。また、ここ2年はほど5年生にORの入門的な講義もしていますが、自分

が現場で苦労したものでなく単に本の内容を紹介するだけでは、学生はなかなか興味をもってくれないことを痛感しました。

米国留学中は所属がシステム科学に関する学科であったため、主として最適制御、数理計画法などを勉強してきました。しかし、現在の研究環境などを考えると研究テーマを多少変えていった方がよいと思っています。元々専攻が確率論ですので、(確率的な)決定モデルやDPなどに最近は関心があります。この方面の部会や研究集会などに参加させていただきたいと思っていますのでよろしくお願いたします。

時政 勲 佐賀大学経済学部管理科学科

管理科学科に席をおいているが、教育活動の面では主に全経済学部生相手の経済理論の講義を、1年生から4年生対象のものまで行っている。

研究については、最適制御理論を用いての枯渇性資源の最適消費理論を中心に行っているが、常々、教育と研究のギャップを感じている。私の研究は、経済学のテーマの1つである一国のレベルでの資源の効率的利用を追求する問題に属すが、この分野は歴史的に、(i)失業をなくして労働の効率的利用を行なおうとするケインズ経済学の時代、(ii)高度経済成長期を背景に、資本蓄積を通じて生産効率の増大を追求した経済成長論の時代、(iii)石油危機以後、石油他の再生不能資源の効率的利用を追求する枯渇性資源を含む最適成長理論へと発展しているように見える。そして(ii)、(iii)段階でOR手法が利用される。

講義では(1)段階の理論を述べ、自分の研究の関心が(2)の問題に移っているためのギャップである。わが国の経済学教育は、高校との接続もほとんどなく、新入生は白紙の状態から始めるため、ギャップは容易には縮まらないのではなかろうか。

田中 征夫 川崎製鉄千葉製鉄所企画部企画室

「構造不況の鉄鋼、造船…」がマスコミの枕詞になって久しくなります。何を予測するにせよ、パラメータの入れ替えでは済まなくモデルそのものを考え直す必要に迫られているのを実感している昨今です。「トレンドを追えば間違いないのでは…」という声もありますが、現状が変曲点ないしは屈折点の近傍に存らしいという思いがこの声を空しいものを感じさせます。

先見性、洞察力のある予測ができないものか、と無いものねだりにも似た感慨に耽ることが多いことです。

アパートの狭いヴェランダにプランターを並べて青物を育てていますが、例年冬になるとこれらは小鳥たちの葉縁素補給源になります。今冬も例外ではなく週末に見るプランターには無惨にも丸坊主になった小株が並んで

います。林立するアパート群の中で遅く生きている小鳥達に拍手したい今年の年始でした。

入退会

移 動 (学生→正)

伊藤 武寿 京都大学→東京瓦斯㈱
糸永 尚子 九州大学→日本アイ・ピー・エム㈱
内田 広樹 九州大学→福岡銀行
大場 葉子 九州大学→日本アイ・ピー・エム㈱
大原 浩行 九州大学→㈱ワイ・イー・ドライブ
木村 俊彦 九州大学→西部ガス㈱
多々良文子 九州大学→㈱東洋情報システム
淵江 哲郎 筑波大学→函館大学
山下 英明 上智大学→上智大学

今後の特集予定

- 1月号 分枝限定法
- 2月号 戦略的マーケティング
- 3月号 組織知能 (仮)

編集後記▶今回は、わが国ではあまりとりあげられてこなかった「金融」という分野を特集してみました。それだけに、耳慣れない言葉が数多く出てくることになると思いつつ「金融」の分野で、現在最もホットなテーマをとりあげてみました。「ORとの接点」には、あまりこだわらずにきましたので、いささか異和感をもたれた向きもあると存じますが、この分野は従来にもまして、OR的アプローチが必要とされており、その意味でも、今回の特集が「金融とORとの接点」を見出すヒントになれば幸いです▶従来、わが国の大手金融機関は、法学部、経済学部出身者の牙城でしたが、最近は理学部、工

学部出身者の大量採用が行なわれています。これは、わが国の金余り・金融の自由化にともなう各種のリスクの増大に伴い、従来の工学部卒はコンピュータという図式が、資金運用リスクの低減のために、数理的感覚に優れた人間を必要とするようになったということから、崩れ出したものです。こうした現場のニーズに則して、今後ますます、OR的技術の「金融」に対するアプローチが重要性を増すものと思われまふ。そういった観点から、今回の特集をお読みいただき、何等かのヒントを得ていただけるとすれば、編集一同これに過ぐる幸はございません。(M)

オペレーションズ・リサーチ

昭和62年12月号 第32巻 第12号 通巻 324号

代表者 吉山 博 吉

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒 113

編集人 山田 善 靖

発売所 株式会社 日科技連出版社
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒 151

• 本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 850円(郵送料含) 年間予約購読料 9600円(郵送料含)

• 本誌への広告お申し込みは明報社 (571-2548)、日経弘報社 (563-2241) へ